

7. 新技術等の活用方針

7.1. 集約化・撤去に関する方針

本区においては、令和2年度に撤去可能な2橋の撤去が完了している。これにより、今後10年間の点検及び修繕費として、約2,000万円のコスト縮減を実現した。

また、凌雲橋歩道橋は、東日本旅客鉄道株式会社と協議を進め、集約化及び架替えに向けた検討を進める。

- 短期的数値目標：凌雲橋歩道橋の2橋の集約化を検討する。

7.2. 新技術等の活用方針

点検業務にあたり、「点検支援技術性能カタログ」等を参考に、橋梁形状、架橋位置、橋齢、補修・補強履歴、直近の点検結果、従前の点検方法を考慮したうえで、コスト縮減及び効率化が見込まれる新技術等の活用を検討する。

また、修繕の工法、材料等の検討にあたり、「NETIS※登録技術」等を参考に、コスト縮減及び効率化が見込まれる新技術・新材料の活用を検討する。

- 短期的数値目標：対象橋梁の2橋において、最新の点検結果に基づき、上野パーキング前歩道橋の塗装間隔を延伸し、今後10年間で約300万円のコスト縮減を目指す。また、塗装等の補修においても新技術を活用した修繕等を検討・実施し、今後30年間で約1,300万円のコスト縮減を目指す。

※ 新技術情報提供システム (New Technology Information System)。国土交通省が新技術の活用のため、新技術に関わる情報の共有及び提供を目的として整備したデータベースシステム。